

ななかまど

一般社団法人 猿払ななかまどの会 会報

令和3年10月1日(金)

第39号

発行：一般社団法人

猿払ななかまどの会 事務局

週刊「さるふつ・風だより」はFacebookで検索するとみられます。

3回目の緊急事態宣言、解除される このまま収束するのか

9月12日までの期限だった緊急事態宣言が30日まで延長され、ついに解除になりました。確かに罹患者数は大幅に減り、重傷者数も徐々に減っています。札幌市の新規感染者も一桁にまでなりました。はたしてこのまま終息するのでしょうか。

ワクチンの2回接種が国民の57%を超え、アメリカを抜きました。その効果もあるのでしょう。緊急事態宣言が延長されてからの罹患者の劇的な減少がみられ今回の解除につながりました。決して人流が少なくなったわけではありません。デルタ株の感染力も弱まった訳ではありません。

きっと、ワクチン接種の他に基本的なこれまでの感染対策が、国民のものになっていて、みんながちょっと意識するだけで劇的に減るんだと思います。

北海道の罹患者1日1桁台を目指そう

しかし、感染が低年齢層にも広がりを見せ、ワクチン接種しても罹患する「ブレークスルー」もみられ、12月から3回目のワクチン接種をする等の話も聞かれます。宣言が解除されても繰り返されてきた「感染の波」をここで一気に断ち切るしかありません。感染対策をもう少し強く意識し、少なくとも北海道の1日の感染者が一桁代になるまでもう少し「withコロナ」対策をがんばりたいものです。

職場実習がんばりました

9月30日から5週間の予定で始まった紋別高等養護学校3年生に在籍の猿払村出身、久保さんの職場実習が終わりました。来年3月の卒業後の就職活動の一環ですが、久保さんは自分の好きなお菓子作りやパン作りがしくて、ななかまどの会での実習を希望したそうです。

ななかまどの会はパン作りだけをしているわけではなく、楽遊館の管理やにんにくの栽培やそれを使った黒にんにくの製品化もしていますし放課後塾で特別支援学級の子ども達も支援しています。この実習ではその全てを体験してもらいました。久保さんの特性もありますが、ななかまどの塾では子ども達の言葉遣いが悪いと気づき、パン作りでは周りを観察して次に何をするのかを予想して動けるように頑張ったそうです。道新の記事にも取り上げていただきましたが、この実習ではオリジナルのパウンドケーキを焼けるように課題を持ってもらいました。レーズン入りのケーキは合格点でした。

北海道新聞 2021年9月14日 (第4頁 9月15日)



LINEでなく葉書にしません？

村の芸術家、千葉由佳里さんのポストカード

村の芸術家、千葉由佳里さんが猿払村の魚「イトウ」をモチーフに描きあげたオリジナルの作品を、今回ポストカードとシールにして会に提供していただきました。

猿払村ではななかまどの会でしか手に入りません。

独特の感性で自分の世界を、豊かな色と精密な形でイメージし広げています。今は企業の専属として月に2枚のオリジナル作品を提供しています。そのうち企業のパンフレットに登場するかもしれません。

今回は2年前の村民文化祭で制作途中だった作品を完成させ、ポストカードにしたということです。鱗の中には「サルupp」もいます。猿払村を紹介するとても楽しい描画です。お土産に、時候の連絡用に、額に入れて玄関飾りしてみませんか？

ポストカード1枚300円、シール3枚100円、楽遊館にて販売しています。



ところで、猿払村の「イトウ」ですが危機です。干ばつで川の水位が下がり水温の上昇のために至るところで酸欠で死んでいるそうです。猿払イトウの会でも頭を抱えています。できることならイトウ釣りの皆さんに「キャッチ&リリース」を是非お願いしたいです。

夏の高気温といい干ばつといい、海水温の上昇といい絶対に異常気象です。



来年用に2600個植えました。

ニンニクの話です。畑好きの皆さんならご存じかもしれませんが、猿払村でニンニクが育つんです。ななかまどの会では元村議の真田さんにアドバイスをいただき6年前から徐々に栽培面積を増やしています。今年も村営牧場の一面をお借りして来年用にニンニクを植えました。今年は1400株でしたので1200株増やし増した。9月中に植えて冬を過ごし来年7月下旬から8月上旬の収穫になります。穫れたニンニクは次年度の「種」と黒にんにく、むき身の冷蔵ニンニクになります。黒にんにくは50g1パック480円で楽遊館で販売しています。

南町の熊はこいつ？

ななかまどの事務局長の画像です。浅茅野台地で撮影しました。小熊もいました。南町の熊は鬼志別川の旧河川敷を移動していたように考えられます。熊は臆病ですから繁華街に出てくるのは静寂な夜でしょう。でも、コーンポストや生ゴミなどがあると味を占めて昼間でも出てくるかもしれません。



酪農家の家庭に砂糖が余っているという情報をいただきました。寄付していただけた助かります。連絡ください。